きびしさとやさしさで育てる明るい子ども(3)

新津市生徒指導推進地区運営委員会

地域に根づいたあいさつ運動

生徒指導推進地区第二年次の成果

県教育委員会指定、生徒指導推進地区として、二年次を迎え、その重点事項を実施してきました。その過程で、PTAや、広く市民のみなさんからご協力をいただくことができました。今、その活動のあとをふりかえってみたいと思います。

あいさつ運動の展開

年間をとおしてこれにあたりました。まず毎月第二週を強調週間として位置づけ、「元気であいさつ明るい生活」と大書した横断幕の下、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「おやすみ」の四つのあいさつことばを重点に取りあげ指導してまいりました。

児童会・生徒会も真剣に取りくみました。標語の掲示・あいさつソングの歌唱などくふうのあとがみられました。

金津青対・公民館の「あいさつ道路」開設など一つの例でしょうが、各地域でも取りくんでいるところがたくさんあります。今後も引続きこの運動を展開し、心の窓を開いてほしいと願っています。

楽しかった交流会

「伸ばそう生徒会」が市内中学校生徒会交流会のスローガンでありました。生徒会の代表者（四十一名）が一泊二日（八月二十八・二十九日）の研修で、よりよいリーダーとなり、生徒会活動のいっそうの向上を願って巻町越前浜の県立青少年研修センターで実施されました。

研修の中心は「生徒会行事の紹介、生徒会活動への協力のし方、風紀の乱れへの対策など」についてでありました。自分の学校の現状を出し合い助言を得てよりよい姿を求めて話し合いました。

討議の合い間にレクリエーション・グループワークなどの楽しい活動もありました。

また、同宿だった肢体不自由者との交流から、自分達の恵まれた身体の幸せと、ボランティア活動の人達の親身の奉仕にも感動させられました。

語り合った懇談会

小・中学校の職員が自分の担当する地域へ出向き、各地域や部落のみなさんとひざを交えて語り合っていただきました。その回数は延べ百五十余会場に及びました。

学校側から児童・生徒の現状について紹介があり、ついで各地域での問題点が話し合われました。

みなさんがたの地域では、何が問題になっていましたか？

学んだ先生たち

市内には、七つの中学校区があります。その校区ごとに小・中学校の先生が一堂に会し、自分の校区の子どもたちの問題行動について検討してみました。

一番の問題は、子どもたち一人ひとりをどう理解するかです。ゆれ動く社会・家庭環境などが子ども達に、どのような影響を及ぼしているのか。次は一旦、問題が生じた際にその子どもや保護者に、どう指導や援助の手を差しのべればよいのかなどです。

こうした問題はさけてとおれない時代であることを再認識し、今後も研さんを積んでいかなければと考えている次第です。